

久喜市立のぞみ園 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和3年3月31日現在

事業名	定員	現員
児童発達支援	定員10名	11名（男児6名、女児5名）

<入退園等>

入園 4名（4月1日男児3名 11月1日女児1名）

卒園 2名（男児1名、女児1名）

退園 2名（5月31日付男児1名 幼稚園への移行のため）

（3月31日付男児1名 保育園への移行のため）

<併用の状況>

4名 幼稚園・保育園との併用

（久喜市立中央幼稚園、久喜市立中央保育園分園）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	平均
男	0	0	1	2	2	1	0	5.6歳
女	0	1	0	2	1	0	1	4.4歳
計	0	1	1	4	3	1	1	4.5歳

イ 障害者手帳の所持状況

区分	療育				身体	なし	計
	㊤	A	B	C	1級		
男	0	1	1	0	1	3	6
女	0	0	1	1	1	2	5
計	0	1	2	1	2	5	11

ウ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開園日数	21	18	22	21	18	20	22	19	20	19	18	23	241日
延利用人数	112	100	140	123	116	130	144	135	133	137	126	161	1557人
利用率%	53.3	55.6	63.6	58.6	64.4	65.0	65.5	71.1	66.5	72.1	70.0	70.0	64.6%

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
園 長	1	児童発達支援管理責任者兼務
保 育 士	4	
支 援 員	1	

計	6	
---	---	--

2 重点実施事項

(1) 利用率の向上

70%を目標としていましたが、年間64%と目標に到達しませんでした。幼稚園や保育園と併用している方が利用しない日を有効に活用できなかったことと、新型コロナウイルスの感染予防による利用の自粛が理由としてあげられます。今後も利用率を上げることを必須の課題として努力していきます。

(2) 役割の明確化

職員間で相談しながら、雇用形態ごとに仕事が分担できるように業務の分担や簡素化を図りました。まだ不十分な点はありますが、職員が公平に業務を行い、自分の仕事を把握できるよう今後も改善をしていきたいと思えます。

(3) 専門的な知識や技術の習得

発達支援の専門研修を受講し、職員間で学んだことの報告を行いました。また、発達支援の専門誌を購読し、発達障害についての知識・支援の方法、保護者支援について深く学ぶことができました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

保護者や療育専門指導者と連携を取ったり、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法や乳幼児精神発達診断法などの発達検査を行いながら、個々に合った支援を行いました。

ア 集団生活に適應する力を育てる

(ア) 食事、排泄、着替えなどの生活習慣や動作をできるだけ自分で行えるように支援をしました。個々に分かりやすく伝えられる方法で、少しずつ段階を踏みながらスモールステップで行いました。

(イ) 生活の中のルールや、人と関わる楽しさを学べるように支援をしました。順番を待つことができるようになったり、友達への興味が少しずつ見られるようになるなど、成長が見られました。

イ 個別支援

(ア) 2～3ヶ月に1回、発達検査を用いて個々の発達段階を確認し、課題を抽出しながら支援を行いました。

(イ) 箸やハサミの使い方、つまむ、握るなど指先や手を使う練習、体幹を鍛える運動などを個別に行う機会を設けました。遊びの中で楽しみながらできるように、行い方も工夫をしました。自分から進んで行う様子も見られました。

ウ 療育専門指導

定期的な療育の訪問指導を行いました。指導者と情報交換を行い、子どもの発達についての情報を共有しました。また、指導者からのアドバイスを参考にして日々の支援を行いました。

エ 家族支援

(ア) 保護者会を年2回行い、意見交換を行いました。運営に関することなどの意見は出ませんでした。保護者同士の情報交換の場として良い機会となりました。

した。コロナ禍で集まる機会をとることが難しくもありますが、保護者同士の連携を取る機会をできるだけ設けていきたいと思います。

(イ) 就学支援として、就学に関する情報の提供や、座談会を行いました。卒園する年長児の保護者だけでなく、年少、年中児の保護者も就学に対する関心が高いため、今後も就学支援を継続していきたいと思います。

オ 移行支援

幼稚園や保育園と連絡会を行い、併用をしている子どもの様子の情報交換や、利用日数・課題についての意見交換を行いました。併用の希望が増えている傾向があるため、幼稚園や保育園との連携を今後も定期的に行っていきたいと思います。

カ 虐待防止対策

新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティアや実習生の来園がなく、支援についてのアンケートの実施や研修への参加はできませんでしたが、内部研修やチェックシートを使って現在行っている支援が適切であるかの確認を行いました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の見直し

職員間で相談しながら、雇用形態によって公平に仕事が分担できるように業務の分担や簡素化を図りました。

イ 時間外労働の軽減

業務の簡素化をしましたが、時間外労働の軽減にはなかなか繋がりませんでした。時間を有効に利用できるように、業務の見直しだけではなく仕事のスケジュールの把握等努めていきたいと思います。

ウ 年次有給休暇の取得促進

年次有給休暇を全職員が5日間取得しました。職員が休みを取り、気持ちをリフレッシュして仕事に臨めるように、休みを取りやすい環境作りを今後も行っていきたいと思います。

(3) 人材育成

ア 発達支援の専門的な知識の習得

発達支援について、オンライン研修に参加しました。また、研修で学んだことを職員間で報告し、支援の向上に結びました。

イ 職務点検の実施

職務点検シートを活用して目標を持って仕事に臨んだり、自分の仕事を振り返ることで自分の課題を意識して仕事に取り組むことができました。

ウ 職員の研修

<外部研修>

研修名	主催	期日	参加人数
「作業療法士による発達障害児への生活支援の実践」	埼玉県発達障害総合支援センター	12月18日	1名

「外国にルーツのある発達障害児支援研修」	埼玉県発達障害総合支援センター	2月23日	1名
「ペアレントトレーニングとは」	埼玉県発達障害総合支援センター	2月25日	1名

< 内部研修 >

研修名	期日	参加人数
地域の関係機関との連携、入園時の流れについて	8月26日	3名
虐待防止について	12月14日	3名
新任職員研修「施設紹介」(発表)	9月10日	1名
主任主査研修「支給決定とサービスについて」「報酬単価と事業運営について」	12月3日	1名

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア)地震、火災、水害、防犯などの避難訓練を毎月実施しました。隣接のすみれ保育園とも連携を取り、一緒に避難訓練を行いました。また、マニュアルの見直しをして、避難の仕方などの確認を行いました。
- (イ)保護者会で災害時のマニュアルや、対応の仕方について保護者へ説明をしました。どのように訓練を行っているか伝える機会を持つことで、保護者の方の安心に繋がったようでした。

イ 安全確保

- (ア)子ども達が活動する場所や使用する物品の安全点検を定期的に行いました。必要に応じて補修や取り替えを行い、安全に子ども達が過ごせるように努めました。
- (イ)ヒヤリハット事例は少ない件数でしたが、事例をもとに職員間でどのような時が危険か共有をして支援をすることができました。

(5) 地域支援・交流

ア 地域の関係機関との連携

保健センターや久喜市の子ども未来課、支援センター等の関係機関と連携を取り、情報を共有しました。療育が必要な子どもの入園に繋げることができました。また、併用をしている子どもが通園している園と連絡会を開いたり、電話で連絡を取り合い連携に努めました。

イ ひよこ教室、すみれ保育園との交流

すみれ保育園の園児とは、園庭での遊びの中で関わりを持つことはありましたが、新型コロナウイルス感染予防のため交流活動の機会を持つことはできませんでした。ひよこ教室との交流も同様です。

(6) 事業運営

ア 空席のカバー

併用をする子どもが利用しない日を有効活用できるように、子どもの受け入れ態勢を整えることが不十分でした。結果、利用率の向上に繋がることがで

きなかったため、職員体制や活動内容の見直しを図り、子どもの受け入れを行っていきたいと思います。

イ のぞみ園のアピール

法人のSNSやホームページで活動内容や園児募集の掲載をしました。活動内容の掲載が少なかったのですが、園に見学に来た方からは、ホームページを観たという方が多かったので、アピールには繋がっていると思います。今後も定期的に発信していきたいと思います。

(7) その他

ア 建物や設備の維持管理

建物、設備が老朽化してきているため、点検を定期的に行ったり必要に応じて修繕・購入をしました。

イ 自己評価表の公表

保護者・事業所がつけた評価表を、意見に対する改善・対応コメントと共に法人のホームページに掲載しました。保護者からは、概ね良好な意見と評価を頂きました。